

## 山口大学大学院医学系研究科眼科学

内 翔平 小林正明 波多野 誠 畑辺なな実

## ☾月 曜 日

1週間の始まりです。後期研修医は6カ月間ずつ、角膜班・緑内障班・網膜硝子体班に割り振られ、それぞれの研修を行います。特定の指導医が一人存在するわけではなく、その班の上級医皆さんにチームとして指導していただきます。

現在、網膜硝子体班に所属している僕は、月曜日には網膜硝子体外来で外来付きをします。初診の患者さんの問診や診察、検査のオーダーを出すだけでなく、再診患者の診察を任せていただくこともあります。また、蛍光造影検査を行ったり、硝子体内注射やレーザー治療を行ったりと、手技的なご指導もいただいています。初めは偽水晶体眼から眼内注射を始めましたが、最近では有水晶体眼の眼内注射も増えてきており、毎回「気をつけすぎるといいことはない」と思うようにして、注射をしています。慣れないうちは何をやるにも時間がかかるため、僕への指導のために外来が滞ることも少なくなく、日々、心と胃を痛めています。

(内 翔平)

## ☾火 曜 日

火曜日は私にとって、週に一度の大学勤務の日。朝9時から教授外来です。後期研修医それぞれが、紹介患者の初診と、再診のフォローアップを担当します。担当した新患の検査は、すべて自分で行うことになっています。上級医の先生方や視能訓練士の方々に検査方法を習いながら、どうにか得られた検査データを使って、診断と治療方針を考えていきます。視力検査から蛍光眼底造影検査まで、普段は何気なくオーダーして結果を待つだけの検査ですが、それらを一から自分たちで行うことで、検査や疾患に対する理解をより深めることができます。

外来が終わると、16時から教授回診、それが終わると医局カンファランスです。医局カンファランスでは、持ち回りで抄読会や症例検討を行っています。関連病院勤務の私にとっては、大学でしか診ることができない難症例を目の当たりにできる貴重な1日です。

医局カンファランスのあとは、病棟業務や書類仕事などの残務をこなします。週によって、外国人講師を招いた英会話教室が開催されており、留学や海外での学会発表など、来るべき日に備えて己の英語力を養ったりもします。そんなこんなで夜も更けて行き、大学での1日は終了です。

(小林正明)

## ☾水 曜 日

私は水曜日の手術担当です。まず、担当患者さんを朝一番に診察します。その後、オペ室へ行き、器械を準備して手術開始時刻を待ちます。先輩医師の助手につきながらも、頭のなかは自分の執刀患者さんのことでいっぱい。ついにやってきた自分の執刀。心臓はバクバ



▲左から畑辺、内、小林、波多野。

ク、指先はブルブルです。使う順番に並べた器械を何度も確認し、イメージトレーニングをします。患者さんにドレーピングをして、術者の椅子に座ると、頭の中は真っ白に…。助手についてくれる先輩医師から差し出された器械と熱い指導のおかげでなんとか手術終了。最後にドレーピングを剥がします。それと同時に張っていた緊張がとれ、疲れがどっと出ます。残った体力で手術記録、次週のオペ申し込み、病棟を回診して、一日が終わります。

まだいろいろなことに慣れていないこともあり、水曜日は私にとって心身ともにボロボロの一日です。しかし、翌日の患者さんの「よく見える」という言葉を聞けば、また来週も頑張ろうと思えるのです。

(波多野 誠)

## 🌀木曜日

木曜日は、市中病院の健診センターに出向します。健康診断の内容は視力、眼圧、診察のみで、眼底カメラコースを選択した人のみ眼底写真を撮影します。基本的に健康診断ではほとんどの受診者が無症状で、異常が見つかることは多くありません。次々に患者が押し寄せるなか、ときにはどうしても視神経乳頭が見えないこともあります。なんとか見落とさないように悪戦苦闘しています。

油断していた本日、流れ作業のように眼底カメラを撮影した際、乳頭近傍にもう一つ乳頭のようなものが写りました。なんだこれは!?「近くの眼科で詳しく調べてもらってください」と伝え、大学に帰りました。上級医に写真を見せたところ、一言、「コロボーマって知ってる?」外勤での心細さや己の無学を実感しながら、日々よい経験をさせていただいています。

(内 翔平)

## 🌀金曜日

枕元で携帯電話が鳴ります。アラームかと思いつめようとして画面を見ると上級医の先生の名前。思わず時計を見ます。午前3:30。「あ、角膜でただけど。」やはり。初めての眼球摘出。献眼していただいた患者さんの家に、先に経験していた研修医と連れだって出かけます。「場所はどこかな」「自宅らしいですよ」「夜中なのにね」という、寝ぼけているようなかみ合わない会話をしながら、まだ夜の明けない暗闇のなかを向かいます。病

院と異なり、いざ器具が足りなかったときに困るため、小心者の私たちはしっかり2セットの道具を持参。眼球摘出が終わって外に出ると、日が昇っています。病院に戻ったら早速強角膜切片作り。慣れていないため、器具の場所探しから含めて時間がかかります。結局当直中の上級医を起こすことに。無事切片を作り終え、通常業務に入ります。今日は外勤日。外来では常勤の先生の隣で、初診および再診外来を担当します。前の担当の先生のカルテを読み解き、所見をとり、治療方針を立てる…。困ったときには診察室の奥で隣の先生につながるカーテンを開けて判断を仰ぎます。ひどいときにはカーテンと診察台を行ったり来たりして完全に隣の診察を妨害してしまうこともあります。今日は幸い2往復でした。

一日の仕事が終わったかと思いきや、ふとチームの担当一覧をみると知らない名前が! これは新入院では…。ちょうど検査のため外来に降りてきていたので、診察と自己紹介。とても耳の遠い患者さんで、自分の名前を5回も言いました。これで覚えてくれるでしょう。気がつくと、外がなんとなく暗くなってきました。何だかいつもよりも仕事をした気になっていると、睡魔が私を襲ってきます。今日は朝からいろんなものと戦ったので、睡魔にくらいは負けてやろうと、負け惜しみを言いながら、1週間が終わっていきます。

(畑辺なな実)

### 〈プロフィール〉(50音順)

#### 内 翔平 (うち しょうへい)

山口大学医学部医学科卒業、山口県済生会山口総合病院にて初期臨床研修、平成25年4月より山口大学大学院医学系研究科眼科学前期専攻医。

#### 小林正明 (こばやし まさあき)

香川大学医学部卒業、関門医療センターにて初期臨床研修、平成25年4月より山口大学大学院医学系研究科眼科学研修登録医。

#### 波多野 誠 (はたの まこと)

山口大学医学部医学科卒業、総合病院社会保険徳山中央病院にて初期臨床研修、平成25年4月より山口大学大学院医学系研究科眼科学前期専攻医。

#### 畑辺なな実 (はたべ ななみ)

山口大学医学部卒業、社会保険下関厚生病院、山口大学医学部附属病院にて初期臨床研修、平成23年4月より湘南鎌倉総合病院救急総合診療科にて2年間の後期臨床研修を終了し、平成25年4月より山口大学医学系研究科眼科学前期専攻医。

### ✿指導医からのメッセージ✿

指導医はとかく「枝葉」のことに興味をもち、楽しそうに話しかけてくるものです。一方、「幹」をまだ十分に知らない研修医のうちはどうしても「枝葉」のことまで頭がついていきません。指導医と「枝葉」についてしっかり discussion できるように、「幹」はしっかりと自分で作って行ってください。幸い、大学病院には症例、個性あふれるさまざまなドクター、書物、教室の経験や蓄積など、勉強する手段が豊富にありますので、自分で工夫して活用してもらったと思

います。みんなが今悩んでいることは我々も悩んでいたことです。実際の症例からスタートし、次の症例に還元できるような勉強や研究を心がけてほしいと思います。

大学病院から関連病院に赴任すると「なんと大学病院時代は恵まれていたことか」と初めて気付くことが多々あります。君たちも今がかけがえのない期間であることを十分認識し、我々を存分に利用して下さい！

(山口大学眼科・病棟医長 山田直之)

☆

☆

☆